

令和4年度第1回大府市認知症地域支援ネットワーク会議  
兼 認知症初期集中支援チーム検討委員会 会議録

- 日 時 令和4年7月29日（金）午後1時30分から午後3時まで
- 場 所 市役所202・203会議室
- 出席者 竹中徳哉、高見雅代、新美恵介、芳賀鉄男、菊池勝子、齊藤千晶、中隆之、田中靖久、久野泰弘、服部啓子、尾之内直美、横山眞弓、西部孝博、森下明雄、松山靖（敬称略）
- 次 第 1 あいさつ  
2 自己紹介  
3 会長・副会長選出  
4 議題  
    (1) 令和3年度・令和4年度大府市認知症施策について  
    (2) おおぶオレンジサポーター活動事業・チームオレンジおおぶ登録事業について  
    (3) 「おおぶ・あったか認知症カフェ “つなげる” オンラインチャレンジ2022」について  
5 認知症初期集中支援チーム検討委員会  
    令和3年度大府市認知症初期集中支援チーム報告書

	内 容（発言要旨）
1 あいさつ 市 長	新型コロナウイルス第7波真っ只中であり市内高齢者施設でもクラスターが発生している状況なので、引き続き感染症対策をお願いする。コロナの影響もあったが、平成30年度から取り組んできた認知症サポーター養成2万人チャレンジを達成し、7月15日に祝いをした。協力に感謝する。これをひとつの区切りとし、認知症サポーター養成含めた認知症施策をさらに展開していきたい。本日は令和3・4年度の認知症施策等について報告するので、忌憚のないご意見をいただきたい。
3会長、副会長選出  会長あいさつ 中 会 長  副会長あいさつ 竹中副会長	会長に中委員、副会長に竹中委員を推薦する。（横山委員） （委員の拍手多数により承認）  コロナ禍で感染者が増えており危惧している。特に認知症の方はコロナ禍で閉じこもったり出ていって感染させたりということがあり、自由度を奪われている状況。大府市の施策はすごい数があり、中にはサポーター2万人達成などあるが、みなさんの意見をお願いします。  コロナがたくさん出ている状況だが、よろしくをお願いします。
4 議題	事務局から資料に沿って説明。 <b>(1) 令和3年度・令和4年度大府市認知症施策について</b> （高齢障がい支援課） ・認知症サポーター養成・活用、本人ミーティング、見守りネットワーク

		<p>(健康増進課)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・健康長寿塾、プラチナ長寿健診・認知症予防健診</li> </ul> <p>(福祉総合相談室)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・成年後見制度利用促進事業 (大府市成年後見センター)</li> </ul>
委員		各委員より意見
中務局長		おおぶ・あった見守りネットワークについて、行方不明の人が見つかった場合「見つかった」というメールは来るが、どこで見つかったかを年間ベースでいいので知りたい。搜索に活かしたい。
中務局長		私たちも時間と距離を気にするところである。
中務局長		市でも、見つかったという連絡が入ってすぐに詳細を知れるわけではなく半日以降に家族にコンタクトをとっている。見つかった場所をまとめて示していけるようにする。
中務局長		警察では実際はどうか。
委員		110番が入ると命に関わる事案として取り扱っている。2、3時間たつと搜索範囲が広がる。できるだけ早く情報が入ると動きやすい。
委員		防災メルマガとの連携をしてはどうか。また、成年後見センターを設置して支援のありかたはどうか。
事務局		防災メルマガとは既に連携している。見守りネットワークの2分後くらいに同じ情報を流している。他のメルマガの連携も検討し、見守りネットワークの強化に努める。
事務局		成年後見センターについて、相談窓口の近さが一番の利点。行政書士と市役所職員での訪問活動などフットワークのよさも発揮している。市の責務を条例に定めている。
委員		認知症サポーターの活動で、認知症の方の社会参加支援にむけて理解を深めるために、本人と共有し、ともに作りあげていく支援のしかた、例えばイベントづくりなど水平な立場で活動ができるとよい。大府市にはスポーツや農業など強みがあるので一緒に作っていけないか。生きがいつくりや高齢者の働くというところに力をいれているようだが、認知症の方でも働きたいという希望がある方がいるので結びつけるネットワークがあるとよい。また、企業への認知症サポーター養成講座で、若年性認知症についても取り入れることを希望する。
中務局長		企業という話がでたがどうか。
中務局長		企業にもよるが、作業によっては危険を伴うので一概には言えない。気持ちはあっても安全が最優先なので理解してほしい。
中務局長		非常にたくさんの認知症施策があるが、何が優先なのか、分析、効果検証はしているのか。オンラインのイベントと説明があつたが高齢者は使えるのか。また、会社では介護休暇などあるが、大府市の介護家族の支援、就業との両立支援についてはどうか。

事務局	優先順位は特に設けてないが、認知症サポーター養成の2万人チャレンジ達成により見守り体制の下地ができたと考えている。サポーターのさらなる積極的な活動につなげていきたい。また、三千人ほどの認知症の方がいるという推計があるので家族のケアを積極的にしていきたい。高齢者相談支援センターという相談窓口も設けている。介護サービス利用の案内などしていきたい。
委員長	三千人は多いと思うが、行政含め誰もがつぶれないようにしていくことが必要。
中会	次の議題について事務局から説明を。
事務局	<b>(2) おおぶオレンジサポーター活動事業・チームオレンジおおぶ登録事業について</b> (高齢障がい支援課) 両事業の違い、それぞれの現状、課題について説明。
委員	活動上の事故などに対して保険はあるのか。
事務局	大府市で加入しているふれあい制度の対象である。
委員	運営している認知症カフェでもオレンジサポーターが活躍しており、参加者のカフェまでの移動を支援してくれ、安心して参加できるとのことであった。
中会	ありがとうございました。次の議題について事務局から説明を。
事務局	<b>(3) 「おおぶ・あったか認知症カフェ “つなげる” オンラインチャレンジ 2022」について</b> (高齢障がい支援課) 今年度の取組予定、課題について説明。
中会	認知症の方のオンライン面会では、必ずサポートがつかないと会話がうまくいかない。見ていて楽しいイベントなどでないと難しいと感じる。横で誰かが説明しながらやるといい。
<b>5 認知症初期集中支援チーム検討委員会</b>	事務局から資料に沿って説明（大府市高齢者相談支援センター） <b>令和3年度大府市認知症初期集中支援チーム報告書</b> チーム員、活動・役割、検討件数の推移、終結時の状況、支援の状況、活動実績まとめ及び令和4年度の取組について説明。
竹中副会長	初回訪問が難しいケースが多々あり、うまく接することが非常に大変な事ではないかと感じる。がんばってやっている。
武田アドバイザー	医療中断のケースで、医療機関側への対応要望があれば教えてほしい。
事務局	中断する理由は、本人が必要と感じないことが一番で、あとは薬が飲めなくても家族も不要と判断してしまう傾向がある。
中会	初期訪問までの日数が伸びていて訪問時間が減っている理由は。
事務局	コロナ禍ということがある。高齢者相談支援センターへの来所相談を「初回」に数えないので長くなっている。来所相談を1回にするともっと短い。
中会	何の目的で数値の差を見ていきたいのかを記載してもらえるとよい。
武田アドバイザー	会長のいうとおり。訪問してなくても相談があれば1回目とカウントしてよいのでは。

中 委	会 員	長 員	全体を通して質問等があれば。本人ミーティングで対象者を集める方法はあるか。もの忘れ外来で診断がついた方にご案内を渡しているが、大府市外の方も来るので個別的な案内が人的に難しいという問題がある。継続的に寄り添うには情報提供だけでなく人的資源の活用が必要。
中 委	会 員	長 員	認知症の人がその人らしく住み慣れたまちで暮らし続けるために、今は点ができてきたところ。これをもっとつなげていけると、認知症サポーターの有効性が出てきそう。
事 務 局	委 員	局 員	朝交差点に認知症に見える方がいる。そのような方がいた場合どのように接すればいいか。
委 員	事 務 局	局 員	認知症サポーター養成講座では、そのような場合の接し方も説明している。基本的には、話しかけられるようであれば優しく声かけを。話しかけることが難しければ高齢者相談支援センターか高齢障がい支援課に連絡を。
委 員	事 務 局	局 員	危険がありそうな場合は警察も対応するので連絡を。 (事務局に進行を戻す)
事 務 局	猪 飼 福 祉 部 長	猪 飼 福 祉 部 長	本日いただいた意見を参考にして、地域の支援を進めていく。今後とも協力をお願いする。